

令和3年度新潟市文書館第1回企画展

「文書館所蔵資料から見る水とのたたかい」

■はじめに

越後平野では、江戸時代から現在に至るまで、海への放水路が数多くつくられました。かつては広大な低湿地が広がっていた越後平野の様々な地域で、人々は治水のための工事を行い、新田開発を進めました。現在、越後平野が日本有数の穀倉地帯となったのは、先人たちが水と闘いながら米作りを行ってきた歴史の上に成り立っているのです。

今回の企画展では、現在の阿賀野川の河口が形成されるきっかけとなった松ヶ崎堀割工事、全国的にも珍しい川の立体交差が生まれた内野新川の大工事、そして現在の「新潟島」ができるきっかけとなった関屋分水路の工事に関する文書館所蔵資料を紹介します。先人達の水とのたたかいの歴史を振り返ってみましょう。



越後平野の放水路概略図

(出典：『みんなの潟学』大熊孝「越後平野の自然的特徴と開発の発端—大地の中の水を動かす—」掲載図、一部加筆)